

特257  
53  
506  
4



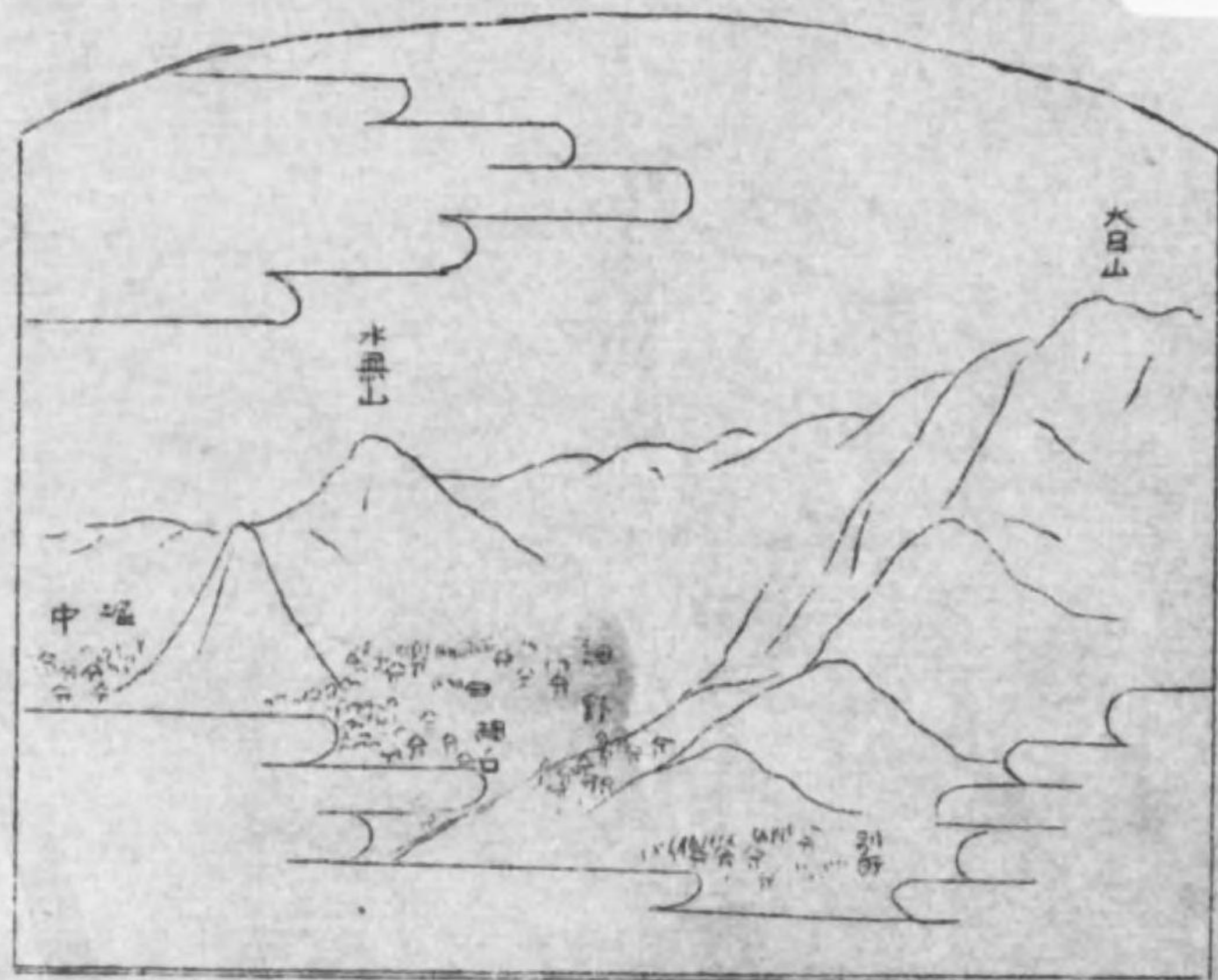
始





特2753

506



# 次女の土郷

版 度 年 八 和 昭

枝 敷 小 土 茶 ・ 龍 野 穴 縣 其 福

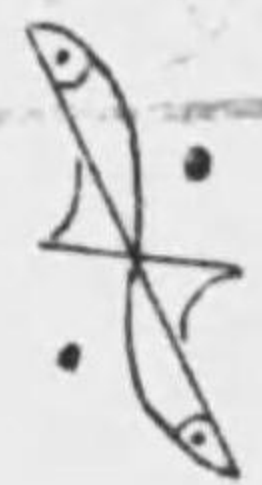


特 257  
506

# 郷土の次女

昭和八年版

荒土小學校



頁	正	誤	表
二五三	一行	誤	正
二八	上段 一行	誤	正
三二	上段 一行	誤	正
三七	創	誤	正
四三	一行	誤	正
四五	一行	誤	正
五〇	田カ年 二五〇計	誤	正
五一	勝山 計	誤	正
六一	一行	誤	正
七一	一行	誤	正
七二	一行	誤	正



緒言

教育の郷土化 郷土教育等々かましく叫ばれる今日、郷土教育について吾人は一歩反省して見なければならぬ。そして郷土教育を有意義にしなければならぬ。郷土教育を反省し再考して、それに對する修正の辞を述べ、更に之が調査研究の要項を挙げて緒言にかふ。

1. 教育の郷土化と郷土教育を概念上區別すること
2. 郷土の研究は歴史的事実よりも、現在の社會狀態そのものであること
3. 郷土社會の單位は、字(部落)を單位とし、村を綜合單位とすること
4. 郷土社會の要因を把握し、相關々係を捉へること
5. 目的はあくまで生きた郷土社會を諒解し、之を改善計畫するやうに努めることに置くこと
6. 新しい郷土計画 教育計画 自治計画 産業計画はすべて郷土研究の上に立脚せねばならぬこと

研究調査要項

- A 自然的要因
- B 人的要因

- |      |       |
|------|-------|
| 1 政治 | 2 經濟  |
| 3 交通 | 4 教育  |
| 5 軍事 | 6 宗教  |
| 7 社交 | 8 其の他 |







.....	C	人口	二六
.....		産業	二八
.....		出稼	三五
.....		産業に關係ある団体	三七
.....		職産(動産)	
.....		産業につゞての生産費	
.....		交通	
.....		交通機関	三八
.....		道路交通統計	三八
.....	D	教育	
.....		學校教育	三八
.....		社會教育	四一
.....	E	軍事	四三
.....		軍事団体	四三
.....	F	宗教	四四
.....		寺院道場	四四
.....		菩提寺戸数	四四
.....		神社	四五

.....	G	社交	四六
.....		社會的村の行事	四六
.....		犯罪	四九
.....		結婚關係	五〇
.....		最近五年間の団体的争とその後始末	
.....	H	其の他	五一
.....		死亡	五一
.....		出生	五三
.....		荒土校児童蛔虫駆除成績	五三
.....		全病歴統計	五四
.....		本村徴兵検査歩合	五四
.....		荒土校児童体格比較	五五
.....		保安	五六
.....		本村出身成功せる人々	五六
.....		村内有勲者	六四
.....		風俗	
.....		不經濟的消費調査	





位置・地勢

郷土の姿 目次終り

第三章

D C B A

歴史的姿

沿革

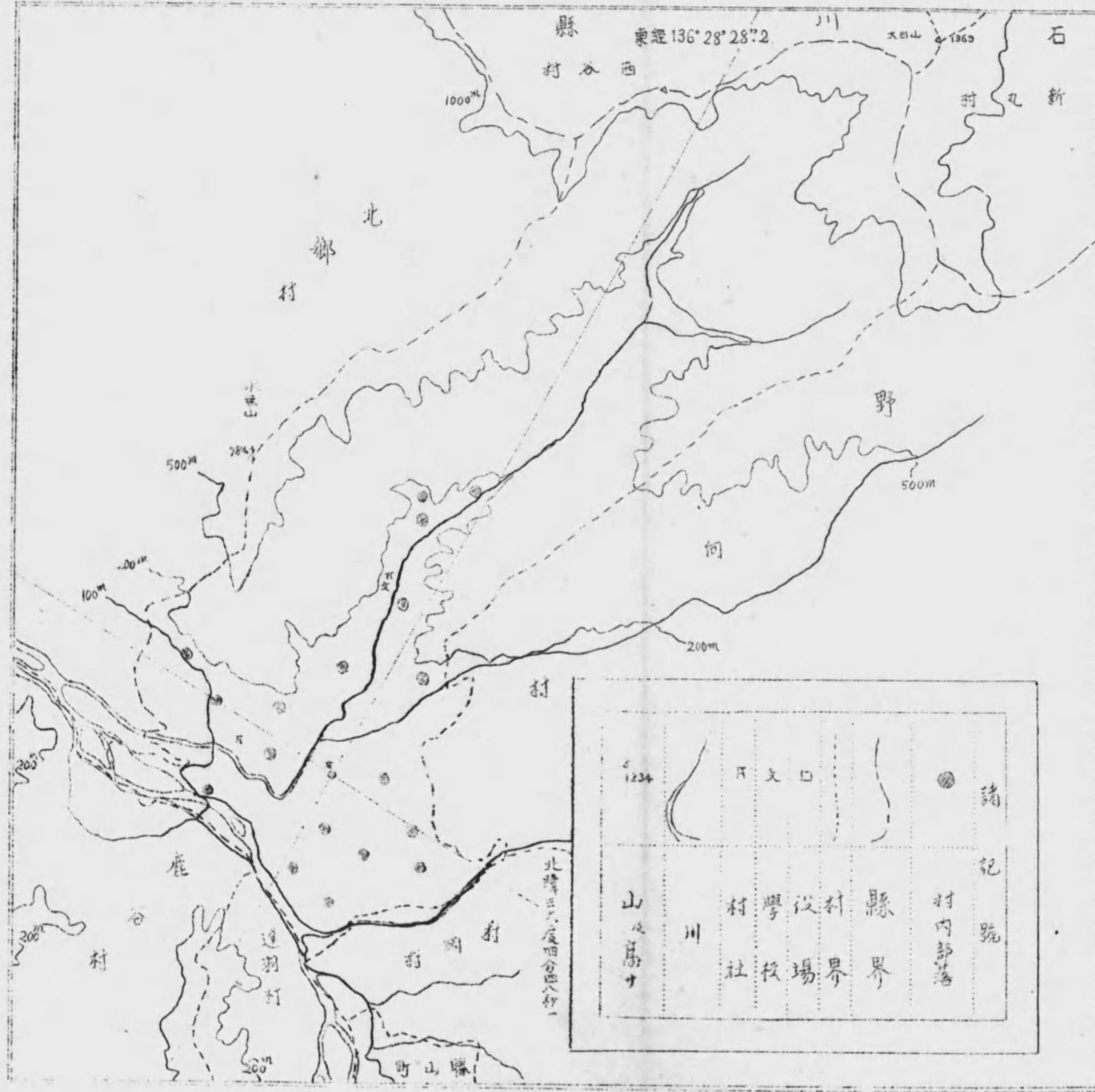
史實

學校沿革

故人物誌

六四  
六四  
六七  
六八  
七一





位置・地勢

郷土の沿革 目次終り







# 郷土の姿

## 第一章 自然的姿

### A 位置

北は石川縣西谷村、新丸村と、大日の連峯を以て境し、東は野向村、村岡村、南は蓮羽村、荻谷村、西は北郷村と隣接す。

### B 面積

役場の位置 東經一三六度二八分二八秒二 北緯 三六度四分四八秒一 一九二方新

### C 地勢

イ 地形 東西最長三五新 最短二新 南北の最長十新にして、長く彎曲してゐる。

ロ 平地 全面積の四分の一にして、四分の三は山地なり。南部に位し、勝山盆地の一部を形成す

ハ 山地 北に大日連山、西に水無山、為に一般に高く、石川縣と境するところ一千米を越ゆ。

大日山 一三六九米 水無山 七八四米四

ニ 河川 九頭竜川は古き傳説をさ、ゆきつ、南東より西方に本村の南部を流れ、支流たる皿川、滝波川は北東より南流し、九頭竜川に入る。

この三川はよく本村の水田をうるはし、又あゆ、あまごの生育場所となる。

### D 氣候





年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
天気	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
雨量	10.3	14.4	18.8	26.6	41.2	100.0	152.0	140.0	114.4	77.2	20.8	6.4
最高	16.5	18.5	21.5	29.0	31.8	34.5	35.5	36.5	35.0	32.0	28.0	25.0
平均	10.5	11.0	12.0	16.0	18.0	20.0	21.0	21.5	21.5	20.5	18.5	16.5
最低	1.0	1.0	1.0	5.0	7.0	9.0	11.0	12.0	12.0	11.0	9.0	7.0
地温	5.0	5.5	6.0	7.5	10.0	13.0	16.0	18.5	20.0	20.0	18.0	15.0
降水量	22.5	22.8	19.0	17.4	17.1	20.8	25.8	19.0	20.4	25.0	27.7	27.6
氣圧	743.7	743.0	743.0	744.4	744.8	744.7	744.8	744.9	745.4	745.4	745.7	746.9
最大	11.5	11.1	11.2	14.5	14.5	13.3	14.2	13.8	11.5	11.0	10.9	14.5
平均	10.0	10.5	10.5	12.8	13.5	14.0	14.5	14.5	14.5	14.0	13.0	12.5
風向	南東	南東	南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東
湿度	84.5	81.2	79.0	77.0	74.3	78.0	80.3	79.0	82.2	84.0	88.0	89.4

E 植物

一 羊歯植物亜部

- ウラボシ科 (水龍骨科) イヌガンソク
- オノモトサウ
- イハガネゼンマイ
- シロモシダ
- オホバネノモノサウ
- クシヤクシダ
- サカゲツヤナシ
- シシガシラ
- ナヤヒンシダ
- ノキシノア
- ベニシダ
- ミヅシダ
- リヤウメンシダ
- オイコワラビ
- フケシダ科 (海金砂科) ツルシノブ
- ゼンマイ科 (蕨) ゼンマイ

トクサ科 (木賊科)

- イヌドクサ (カハラドクサ) スギナ
- ヒカゲノカツラ (石松科) タウゲシバ
- ヒカゲノカツラ
- イハヒバ (巻柏科) イハヒバ
- クラマゴケ

二 裸子植物亜部

- イチノ斗 (一位科) イヌガヤ
- ハヒイヌガヤ
- マツ (松科) アカマツ (ママツ)
- クロマツ (ママツ) スギ
- モミ

三 被子植物亜部

- (甲) 雙子葉門
- (イ) 古生花被亞門
- ハンゲシヤウ (三白草科) ドクダミ
- ナヤラン (金粟蘭科) フタリシズカ
- ヤナギ (楊柳科) イヌコリヤナギ



オホネコヤナギ      デヤヤナギ  
 ネコヤナギ      ヤマナラシ(ハコヤナギ)  
 カバノギ(樟木)科      オバルハンノキ  
 アツママナシハンノキ      ツノハシバミ  
 ミヤマカハラハンノキ  
 穀ネ科      イヌブナ  
 クヌギ      クリ  
 コナラ      ブナ  
 ニレ(楠)科      ケヤキ  
 クハ(桑)科      ヤマグハ  
 イラクサ(毒麻)科      アカソ  
 ウハバミサウ      カラムシ  
 ミヤマイラクサ  
 ビヤクダン科(檀香料)      カナビキサウ  
 タデ(蓼)科      アキノウナギツカミ  
 イシミカハ      イタドリ  
 イヌタデ      ギシギシ  
 サクラタデ      スイバ

ニハヤナギ      ハナタデ  
 ミゾソバ  
 アカザ(藜科)      アカザ  
 ヒユ(蕺)科      斗ノコヅネ  
 スベリヒユ(馬齒莧)科      スマリヒユ  
 ナデシコ(石竹)科      ウシハコベ  
 カハラナデシコ      サハハコベ  
 ツメクサ      ノミノフスマ  
 フシグロセンノウ      ミミナグサ  
 ウマノアシガタ(毛茛)科      アキカラマツ  
 キツネノボタン      ウメバチモ  
 シクメイギク      サラシナシヨウマ  
 ヤマトリカブト      ボタンヅル  
 アケビ(木通)科      ゴエウアケビ  
 ミツバアケビ  
 メギ(小蓼)科      サンカエウ  
 トキハイカリサウ      メギ

ルキエウホタン      イカリサウ  
 ツヅラフジ(鶯)科      アヨツツラフジ  
 カウネリカヅラ  
 モクレン(木蘭)科      コブシ  
 タムシバ      ホホノギ  
 クスノキ(樟)科      アブラナヤン  
 クロモジ      シロダモ  
 タンカウバイ  
 ケシ(罌粟)科      キケマン  
 タケニゲサ(ニヤンバギク)      ミヤマキケマン  
 十字科      イヌガラシ  
 タネツクバナ      ナズナ  
 ベンゴイサウ(景天)科      キリンサウ  
 ヲノマンネンゲサ  
 エキノシダ科(虎耳草)      イハガラミ  
 ウツギ      ウラジロウツギ  
 サハアジサイ      シバアジサイ(シバアジサイ)  
 ダイモンヅサウ      トリアシシヨウマ  
 ネコノメサウ      ノリウツギ

ミヤネコノメサウ      ヤグルマサウ  
 エキノシダ  
 マンサク科(金縷梅)      ニシキマンサク  
 イバラ(薔薇)科      アズキナシ  
 エビガライチゴ      ヲヘビイチゴ  
 オホフジイバラ      キジムシロ  
 キンキマメザクラ      キンミスヒキ  
 クマイナゴ      シモツゲ  
 ダイコンサウ      ツシマナナカマド  
 ナハシロイチヂ      ノイバラ  
 バライチヂ      フユイチヂ  
 ヘビイチヂ      ヤマザクラ  
 ヤマブキ  
 マメ(豆)科      アカツメグサ  
 カスマグサ      カラスノエンドウ  
 クズ      クララ  
 コマツナギ      シロツメグサ  
 スズメノエンドウ      ナンテンハギ  
 ヌスビトハギ      ネコハギ



ネムハギ  
ミヤコグサ  
ヤハズサウ  
ニハフジ

ハギ  
メトハギ  
レンゲサウ(ゲンゲ)

- フクロサウ(槐牛患)科 フウロサウ
- カタバミ(酢漿草)科 カタバミ
- ミヤマカタバミ
- ヘンルウダ(芸香)科 イヌザンセウ
- ニガキ(苦木)科 ニガキ
- センダン(楝)科 ナヤンナン
- ヒメハギ(遠志)科 ヒメハギ
- タカトウダイ(天戟)科 タカトウダイ
- ユヅリハ
- ドクウツギ(毒空木)科 ドクウツギ
- ウルシ(漆樹)科 ウルシ
- ツタウルシ ヤマウルシ
- モクノキ(冬青)科 イヌツゲ
- ウメモドキ ソヨゴ

エシキギ(衛矛)科 マユミツルバナ  
イハウメツル コマユミ  
サハダツ ツルウメモドキ  
ツルマサキ マユミ

- カヘデ(槭樹)科 イタヤカヘデ(三葉槭)
- ウリカヘデ ウリハダカヘデ
- オホイタヤメイグツ コミネカヘデ
- ハウチハカヘデ ヤマモミダ
- カラコギカヘデ
- トクノキ(七葉樹)科 トクノキ
- クロウメモドキ(白風李)科 イソノキ
- コバノクロウメモドキ ヒロハクマヤナギ
- ミヤマクロヤナギ
- ブドウ(葡萄)科 コビツル
- ナツツタ ノブドウ
- ヤマアドウ サンカクヅル(ギョウジヤクシ)
- サルナシ(猕猴桃)科 マタタビ
- ツバキ(山茶)科 ヒサカキ

ヤブツバキ  
オトギリサウ(金線桃)科 アゼオトギリ  
オトギリサウ

- スミレ(堇)科 アフヒスミレ
- スミレ
- タネツボスミレ
- キブシ(旗節花)科 キブシ
- グミ(胡頹子)科 アキグミ
- ミソハギ(千屈菜)科 ミソハギ
- アカバナ(柳葉菜)科 タニタデ
- マツヨヒグサ ミヅタマサウ
- ウコギ(五加)科 ウコギ
- ウド タラノキ
- トクバニンゲン ハリギリ(センノキ)
- フエツタ(ギツタ)
- サンケイ(繖形)科 ウマノミツバ
- ヲヤブシラミ セリ
- ナドメグサ ドクゼリ

ミツバ ヤブシラミ  
ヤブニンジン(ナガジラミ)

- ミツギ(山茱萸)科 アヲキ
- クマノミツギ ハナイカダ
- ミツギ ヤマボウシ
- (2) 後生花被虫門
- イハウメ(岩梅)科 イハウチハ
- リヤウブ(令法)科 リヤウブ
- イナヤクサウ(鹿蹄草)科 イナヤクサウ
- シヤクナゲ(石南)科 アクシバ
- イハナシ ウラジロヤウラク
- ケアクシバ サイゴク、ツバツツジ
- サラサドウダン ナツハゼ
- ホツツジ ヤマツ
- ヤマツツジ ムラサキヤシホツツジ
- ヤブカウジ(紫金牛)科 ヤアカウジ
- サクラサウ(櫻草)科 オカトラノオ
- コナスビ ヌマトラノオ



- カキ(柿)科 ヤマガキ
- ハヒノキ(安息香)科 サハフタギ
- タンナサハフタギ
- エゴノキ(齊墩果)科 エゴノキ
- ヒヒラギ(木犀)科 イボタノキ
- オホバイボタ
- コバノトネリコ
- イケマ
- クサタ子バナ
- カモメヅル
- スズサイコ
- ガガイモ
- ヒルガホ
- ヒルガホ(施花)科
- ムラサキ(紫草)科 ミヅタヒラコ
- ヤマユリサウ
- クマツヅラ(馬鞭草)科
- ムラサキシキブ
- クサギ
- タツナンサウ
- シンケイ(唇形)科
- アキギリ
- アキナヤウジ
- イヌゴマ
- ウツボクサ
- カキドウシ
- キランサウ

- クルマバナ
- ニシキゴロモ
- ヒメシロネ
- ヤマハクカ
- タウバナ
- ハクカ
- ヤマクルマバナ
- ナス(茄)科
- センナリホホヅキ
- ゴマノハグサ(玄参)科
- アゼタウガラシ
- オホイマノフグリ
- クガイサウ
- シホガマギク
- トキハハゼ
- ミヅホホヅキ
- ハヘドクサウ(蠅毒草)科
- ハヘドクサウ
- オホバコ(車前)科
- オホバコ
- アカネ(茜草)科
- カハラマツバ
- オホバノヨツバムグラ
- ツルアリドホシ
- ヒメヨツバムグラ
- ヨツバムグラ
- スヒルズラ(忍冬)科
- ガマズミ
- コバノガマズミ
- スヒカズラ
- タニウツギ
- ツクバネウツギ
- ニハトコ
- ミヤマガマズミ

- ヤブデマリ
- ヲトコヘシ
- ラミナヘシ(敗醬)科
- ヲトコヘシ
- ウリ(胡蘆)科
- アマチヤズル
- カラスウリ
- ツルニンジン
- キキヤウ(桔梗)科
- ホフルアクロ
- アキノキリンサウ
- キク(菊)科
- アキノゲシ
- イヌヨモギ
- ウラジロアザミ
- オタカラコウ
- ヲトコヨモギ
- オホヤマボクナ
- カウゾリナ
- カハラハハコ
- コハラヨモギ
- キツコウハゲマ
- クルマバハグマ
- シラヤマギク
- センボンヤリ
- ギシバリ
- ニガナ
- ノアザミ
- ノアキ
- ハクサンアザミ
- ハハコグサ
- ハルノノゲシ
- ヒメガンクビサウ

- ヒメジヨラン
- フキ
- モミヂハグマ
- ヤマニガナ
- ヤマボクナ
- ヨモギ
- (乙) 單子葉門
- ガマ(香蒲)科
- ガマ
- オモダカ(茨蕩)科
- ウリカハ
- オモダカ
- クワキ
- 禾本 科
- アシボソ
- アブラススキ
- エノコログサ
- オニシバ
- カモジグサ
- ギヤウギシバ
- クサヨシ
- コメガヤ
- ササクサ
- ススキ
- スズメノカタビラ
- スズメノナヤヒキ
- スズメノテツボウ
- タバコ
- ナガヤ



ナカラシバ

ナナミザサ

ドダヤウツナギ

ヌカボ

ノビエ(イヌビエ)

マダケ

ヨシ

カヤツリグサ(莎草)科

オクノカンスゲ

キンキカサスゲ

コジユズスゲ

シヤウジヤウスゲ

テキリスゲ

ヒメシラスゲ

カラスビシヤク

テンナンシヤウ

ウキクサ(浮萍)科

ツユクサ(鴨跖草)科

ナゴザサ

ナマキザサ

トボシガラ

ネツミガヤ

ヒエガヘリ

ミゾイナゴツナギ

アヨスゲ

ガウソ

コアゼテンツキ

サンカクキ

タガネサウ

ヒメカンスゲ

ヒンゲカヤツリ

シヤウブ

マムシグサ

ウキクサ

ツユクサ

斗(燈心草)科

カウガイセキシヤウ

ユリ(百合)科

アヨヤギサウ

エンレイサウ

オニユリ

カタクリ

サルマメ

シヤウジヤウバカマ

ナゴユリ

ナルコユリ

ノビル

ホソバナルユリ

ミヤマナルコユリ

ヤブラン

ヤマダノホトトギス

リウノヒゲ

斗

スズメノヤリ

オホハワウセウ

アサツキ

ホトトギス

オホバギボウシ

サルトリイバラ

シホデ

タチシホデ

ツクバネサウ

ノギラン

ハウチヤクサウ

ミヅキボウシ

ヤブクワンザウ

ヤマガシウ

ユキザサ

ヒガンバナ

戸 昆虫 類

有翅亜細

完全変態美

• 隱翅目

• 雙翅目

• 膜翅目

• 鞘翅目

• 鱗翅目

ゴミムシ

アトホシゴミムシ

ヤナギルリハムシ

ミヤマクワタカ

ヒトノミ

イハバヘ

シホヤアブ

ハハチ

トックリバナ

ゲンゴロウ(水)

オホゴミムシ

オホホシテトウムシ

カナブン

アカバヘ

シホリヤアブ

ミツバナ

ブンボアメバナ

ガムシ(水)

オホキヅリアヲゴミムシ

クワコガネハムシ

コガネムシ

シマバヘ

ムシヒキアブ

キバナ

セキトックリバナ

ヒメガムシ(水)

ヒメカノコテントウムシ

ジンガサハムシ

マメコガネムシ

カガンホ

カ

カブラバナ

外不詳ナルモノ五種

スナアヲゴミムシ

ウリハムシ

ノコギリクワタカ

セズチコガネムシ

アブ

(本春採集セシモノ)

シヤガ

シヤウガ(苦蕒)科

• ラン(蘭)科

シユンラン

メウガ

カキラン

ネデバナ



ゴメツキ カブトムシ ハナムグリ オホハナムグリ トラハナムグリ  
 フアヨバナムグリ エンマムシ キタスヒダマシ ヘイケボタル ゲンジボタル  
 オホゾラムシ ハンメウ ムラサキハンメウ ニハハンメウ ミイデラハンメウ  
 アシナガオトシブミ シヨウカイボウ シロスチカミキリ キクスヒカミキリ  
 キイロトラカミキリ ナガコマフカミキリ ホシデニカミキリ クワトラカミキリ  
 シラホシカミキリ リンゴカミキリ ヨツスチカミキリ キスチカミキリ  
 ウスバカミキリ ノコギリカミキリ ゴマタラカミキリ クロカミキリ  
 ヤマカミキリ

・ 鱗翅目

アゲハテフ カラスアゲハ オホムラサキアゲハ キアゲハ  
 アゲハモドキ ギンモンヒヨウモン ヤマシヨウロウ ヒオドシ ツマギ  
 キマダラヒカゲ スデグロテフ コマダラ モンシロテフ モンギテフ  
 一モンデテフ 一モンデセセリ ダイメウセセリ ヒメセセリ ハナセセリ  
 ジヤノメ クロヒガゲ ムラサキコゴメ ヨツメガ ルリシゴミ イラガ  
 クロヒガゲ ウスバシロテフ トモエガ ヨトウガ カノコガ ツマキリ  
 エダシヤクトリ オホゴマダラエダシヤクトリ エウマダラエダシヤクトリ  
 ゴマダラエダシヤクトリ トンボエダシヤクトリ キンスゲエダシヤクトリ  
 シロツバメエダシヤクトリ ヘウモンエダシヤクトリ リンゴエダシヤクトリ ドクガ  
 ツマトビキエダシヤクトリ トンボエダシヤクトリ ヒヨウンエダシヤクトリ ホタルガ  
 ヒトリガ

不完全変態類

ヨツメアヲシヤクトリ シロスチアヲシヤクトリ オホミゾアヲ  
 エビガラズメガ ウチスズメガ ウチスズメガ ウンモンズメガ  
 トビイロシヤクホコ ウスアヲシヤクホコ アバノメイガ ギンツバメガ  
 タバシヤク アラリンガ ムシボソバ キンスゲアツバ モンシロドクガ  
 ギンモンガ イカリモンガ クロシタアヲイラガ ハラアカヒトリガ  
 フトスデモンヒトリガ ヒメゴマダラヒトリガ たばこのが 外不詳ノモノニ七種  
 ・ 毛翅目 ヒゲナガトビゲラ ムラサキトビゲラ 外不詳ノモノニ三種  
 ・ 長翅目 シリアゲムシ ウスバカゲロウ 外不詳ノモノニ三種  
 ・ 脈翅目 ヘビトンボ

・ 半翅目

クサガメ ヨコバヒ アメンボウ(水) タガメ(水)  
 ニーニーゼミ アブラゼミ ヒゲラシ ツクツクボウシ 外不詳ノモノニ三種  
 ・ 蜻蛉目 オニヤンマ コシボソヤンマ ヒメヤンマトンボ アカネトンボ  
 ムギハラトンボ シホカラトンボ オホシホカラトンボ ミヤマアカネ キトンボ  
 ヤナギトンボ オハグロトンボ イトトンボ カハトンボ ミヤマカハトンボ  
 外不詳ノモノニ八種  
 外不詳ノモノニ二種

・ 蟬目

カゲロウ ゴキブリ  
 ヒトジラミ ケジラミ



• 食毛目 ハジラミ  
 • 椿翅目 カハゲラ  
 • 直翅目 ハサミムシ  
 カマキリ  
 キナキナバツタ コホロギ  
 ケラ  
 無翅亞綱  
 無変態類  
 シミ  
 (以上本春採集セシモノ)

甲 貝類

(特ニ茶大黒田教授ノ鑑定ヲ受ケタリ)  
 水棲ノモノ 別所 埴名 松崎 新保ノ川ノ中ニユルモノ  
 マシジミ マツカサガヒ モノアラガヒ(妙金島) マルタニシ オホタニシ  
 オホカハニナ ヒラマキミズマイマイ(松田ノ水田中) (オホカハニナは本村特産)  
 陸棲ノモノ 松田 埴名 宮地 細野口ソノ他ノけやぎノ木ノ根本ニユルモノ  
 シロナミギセル オホタカコギセル ホソナカチヤウチガヒ オホケマイマイ  
 エネゼンケマイマイ(松田ゆぶ) 全キゼンケマイマイは本村特産  
 全 山林 ソノ他ノ雜草中ニユルモノ(恰ニカタツムリト言ツテキルモノ) ツルガマイマイ  
 コシタカコベソマイマイ ニホンマイマイ ステルンマイマイ ウスカハママイマイ カサキビ

第二章 人的の姿

A 行政

• 村民選出の村會議員(不口ハ順)  
 横山 陸翠 田中伊兵衛 若田 善正  
 北川繁太郎 島田鐵右衛門 南部傳之進 原田 貢  
 • 村會の選挙による村長 竹内 茂一 西和八年九月三選 東川 蘇平 昭和四年四月二十日當選  
 • 村長推薦による 助役 石川九八郎 昭和八年二月三回 切田 久吉  
 收役 木下 民榮 黒田 盛  
 笠羽 信 丹後 佐吉  
 役場 丹後 佐吉 黒田 盛 多田彦彦門 鷲淵 晃

B 經濟

• 區長 昭和年度  
 布市 島田藤彦門 松田 木下 廣吉 田石坪 丹後 寺  
 戸倉 日谷 文藏 清水島 多田治三郎 新在家 水上 清  
 宮地 田中利三郎 西ヶ原 古坂 元治 新道 泉崎文四郎 堀口 水上 静夫  
 妙金島 島田治郎兵衛 松ヶ崎 石井 眞一 伊波 久保 久吉 井原 長岡 圭輔  
 1 田之部







區名	反別	地價	區名	反別	地價
松田	二六〇一	五二五	宮地	六六三三	六四一
白名部	七四二八	一四七五	塚中	六二二九	四八一
布市	四二二	九〇	伊波	六二二九	四八一
清水島	五二二	九〇	妙全島	一三八四	一〇五二
新在塚	一〇二	一〇四	松ヶ崎	三〇八一	三〇五
別所	九一	一〇二	新保	四八二九	九七七
細野	一〇八	一〇二	計	二二四四	二三五九
細野口	一〇七	一〇二		四二六	二五九

6 雜種地池沼之部

細野	計
三〇〇	三三八
五〇〇	一〇〇八
五〇	三九

地價合計 十三萬一千九十七圓六十錢  
 全一戸平均 二百六十八圓九錢五厘

1 國稅

村有地	區名	宅地租	田租	畑租	雜地租	營業收益稅	所得稅	計
	松田	六二四	六三一	七〇	二四	一	一	六九六
	白名部	一八一	二五七	五七	一〇	一	一	三〇六
	布市	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	清水島	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	新在塚	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	別所	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	西原	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	新道	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	戸倉	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	細ノ口	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	宮地	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	塚中	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	伊波	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	妙全島	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	松ヶ崎	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	新保	一〇〇	一七四	二七	一	一	一	一八九
	合計	六二四	六三一	七〇	二四	一	一	六九六

區名	反別	地價	區名	反別	地價
松田	二九二二	二九〇八	宮地	六六三三	六四一
田名部	六二四	六三一	塚中	六二二九	四八一
布市	一八一	二五七	伊波	六二二九	四八一
清水島	一〇〇	一七四	妙全島	一三八四	一〇五二
新在塚	一〇〇	一七四	松ヶ崎	三〇八一	三〇五
別所	一〇〇	一七四	新保	四八二九	九七七
西原	一〇〇	一七四	計	二二四四	二三五九
新道	一〇〇	一七四		四二六	二五九
戸倉	一〇〇	一七四		五〇	三九
細ノ口	一〇〇	一七四		一〇	三
宮地	一〇〇	一七四		一	〇
塚中	一〇〇	一七四		一	〇
伊波	一〇〇	一七四		一	〇
妙全島	一〇〇	一七四		一	〇
松ヶ崎	一〇〇	一七四		一	〇
新保	一〇〇	一七四		一	〇
合計	二九二二	二九〇八		一	〇







村税第一表

種別	松田	田名部	布市	清水島	新在家	別所	境	西ヶ原	新道	戸倉	細ノ口	宮地	堀名	中清水	伊波
地租附加税	二一四二二	四六四八	一九五八	一三二一四	一五五八	二一七二六	二五七五〇	五四二二	五三二八	一四六八	二七三六六	一四〇七六	一六四二六	一〇六六	三七一
家屋税附加税	六四六八	一三三二	四一九四	四六一五	四四〇七	四七八九	三九五一	三三〇六	一八三	一三三	七八〇九	四三六九	七〇四一	二四四	七六九五
戸数割	八五四八	一七二五九	五四三三	五三三九	五七三九	五七八〇	七二七四	二〇三二	二四七〇八	一四七六六	九三九	四三二八	八五七〇	三三七七	一二四
營業收益附加税	四七一						五八			五八〇	二二九	二一七六	四六四		六四一四
營業税附加税	四九一	三八八	五五七	九四七			一三五				八四九	一三四九	七三〇		七三〇
特別地租附加税	七〇四九	五二七	三八〇六	一八三一	三四〇五	一〇八九	一三七五	一〇八九	一〇八九	一〇八九	一〇八九	一〇八九	一〇八九	一〇八九	一〇八九

第2表

種別	松田	田名部	布市	清水島	新在家	別所	境	西ヶ原	新道	戸倉	細ノ口	宮地	堀名	中清水	伊波	其の他	合計
雑種税	七〇四九	六二六	三八〇六	一八三二	三四〇五	一〇八九	一二七五	六三九	一四二四	一四二四	一四二四	一四二四	一四二四	一四二四	一四二四	一四二四	二八〇二
合計	一二五八一	二五六一	八六〇七〇	七七四三七	八二七七八	八六〇七〇	一〇三二一五	四二二一五	三八六六九	三八六六九	三八六六九	三八六六九	三八六六九	三八六六九	三八六六九	三八六六九	一九九〇五

種別	松田	田名部	布市	清水島	新在家	別所	境	西ヶ原	新道	戸倉
雑種税	七〇四九	六二六	三八〇六	一八三二	三四〇五	一〇八九	一二七五	六三九	一四二四	一四二四
合計	一二五八一	二五六一	八六〇七〇	七七四三七	八二七七八	八六〇七〇	一〇三二一五	四二二一五	三八六六九	三八六六九

種別	細ノ口	宮地	堀名	中清水	伊波	妙金島	松ヶ崎	新保	其の他	合計
雑種税	二三四九	六七七三	一五五七	五六一三	一八一四	二三五八	六〇〇二	一三三九	一三三九	六〇〇九
合計	一四〇三九五	七四〇五七	一八九七七	五四五四四	一七九八二九	四七七八八	七六四九四	一三三九	一三三九	一五〇二九



4 租税平均負担額

國稅	一 二六四	一人當月	二七五
縣稅	二 五五四		四一三
村稅	二 九八八		五四七
合計	六 五〇六		一 二三五

1 豫算  
本村豫算最近八年累年調

年 度	歳 入	経 常 部	臨 時 部
大正十五年度	一九九四七	一九一三八	八〇九
昭和二年度	二一六三二	一九七五四	二九九
昭和三年度	二二五八〇	一九〇四五	三三三
昭和四年度	二二二三五	二〇〇四四	三一九
昭和五年度	二二一五六	一九二五三	二九〇
昭和六年度	二一五七五	一九一七九	五三九
昭和七年度	二九九五〇	一九一四五	五二九
昭和八年度	二二三四一	一七九六〇	五三八

2 本年度豫算

歳 入	歳 出
財産收入	雑支出
便用手数料	雑収入
交際金	雑税
回廊下渡金	財産売却
回廊補助金	計
県費補助	計
寄附金	計
繰越金	計
雑収入	計
村 税	計
財産売却	計
計	計

注：計取座 山林 六五九町六又二畝二九步 造林 三〇〇〇〇本  
 勤労債券 〇〇〇〇 現金 三九二〇円 宅地 四〇五步  
 現金 三九二〇円 宅地 四〇五步



別齡年 2

戸数	女										男									
	七	六	五	四	三	二	一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	一〇	九	八
四二	二	三	一	一	二	二	二	四	五	一	六	八	七	二	八	二	六	二	四	二
九	六	二	一	二	四	四	九	一	三	三	一	二	七	二	七	二	六	二	六	二
三七	四	九	五	五	二	四	一	七	二	六	七	八	九	一	一	三	二	九	二	
三三	二	三	一	一	一	九	二	二	七	一	二	八	六	二	九	一	九	二	一	
二六	四	三	六	四	二	八	二	五	二	四	二	八	五	一	五	一	五	二	四	
二八	四	七	五	一	五	九	一	六	三	九	四	九	八	一	六	二	八	二	六	
三三	一	七	四	一	一	一	八	三	一	一	九	一	一	一	七	一	四	二	七	
七一	二	五	三	七	八	一	九	二	二	四	五	五	四	六	一	一	六	一	一	
一四	一	三	四	一	七	八	五	一	一	五	二	四	五	四	一	一	一	一	一	
一一	一	四	三	一	五	四	八	九	一	二	三	三	四	七	五	四	一	五	一	
四〇	四	一	三	七	九	六	三	三	六	八	四	九	二	二	三	三	三	四	一	
二〇	二	四	四	一	五	四	二	二	二	七	六	六	四	七	一	一	一	一	一	
六二	六	一	九	五	一	三	三	四	五	一	一	一	七	二	四	一	四	一	一	
五〇	一	三	七	一	一	二	六	三	五	一	一	一	一	九	五	八	三	七	一	
一八	二	五	四	五	七	三	三	三	二	八	七	二	七	二	七	一	一	一	一	
一八	一	一	三	三	四	一	一	一	二	六	四	四	六	九	七	二	一	一	一	
三三	七	八	一	一	一	一	一	三	六	一	二	七	九	二	三	四	三	四	一	
四八	一	一	一	一	一	三	三	三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
九九	一	一	一	一	一	三	三	三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

注 職業の字は学校生徒児童 無は無職及幼児と入れあります

別業職 1

人口調査 昭和六年六月二十日調査

合計	女					男					職業名
	計	無	其他	学	商	計	無	其他	学	商	
二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	田松
五二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	市南
一六	七	一	一	一	一	七	一	一	一	一	市南
二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	島水
一八	八	二	二	二	二	八	二	二	二	二	家新
一七	七	一	一	一	一	七	一	一	一	一	所別
一〇	九	一	一	一	一	九	一	一	一	一	境
八一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	道新
一五	五	一	一	一	一	五	一	一	一	一	倉戸
二二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	口湖
一三	六	一	一	一	一	六	一	一	一	一	地宮
一三	六	一	一	一	一	六	一	一	一	一	中坂
一三	七	一	一	一	一	七	一	一	一	一	波伊
二五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	島金
一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	崎花
三三	七	一	一	一	一	七	一	一	一	一	保新
四八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	合計



産業  
1 農業

昭和三十七年度

昭和七年度

米産

昭和三十七年度

産米検査をうけしもの

合計	兼作	小作	自作	區名
四三	一四	一九	九	田松
九	六	二	一	新田
二五	六	二	一	市布
三	一四	九	八	清水島
二四	八	八	八	新在家
二七	一	四	一	別所
六四	二	三	一	野細
四七	一	八	六	口細
二〇	九	五	六	地宮
五	一	七	二	中塚
四	一	三	九	波伊
一八	八	三	七	島金
一七	七	六	四	崎松
三〇	一	二	九	保新
四	一	一	一	合計

別所	新在家	清水島	布下	田名部	松田	早生反別	中生反別	晩生反別	合計	収量	反當	収入
七〇	五五	七三	七五	一七	八五	ウル	ウル	ウル	二〇	四	二	九
八	六	五	五	二	一	毛十	毛十	毛十	一	五	二	一
八	八	一	二	二	一	ウル	ウル	ウル	二	一	一	一
一	三	八	九	二	三	毛十	毛十	毛十	二	一	一	一
二	四	七	六	七	二	ウル	ウル	ウル	二	一	一	一
二	二	一	一	一	一	毛十	毛十	毛十	二	一	一	一
一	一	一	一	一	一	合計	合計	合計	二	一	一	一
四	四	四	四	一	五	収量	収量	収量	四	一	一	一
五	九	五	七	一	五	反當	反當	反當	二	一	一	一
八	九	五	七	一	五	収入	収入	収入	二	一	一	一
九	七	九	七	一	五				二	一	一	一

葉煙草

昭和七年度

區名	田松	新田	市布	清水島	新在家	別所	合計
耕作別	一七	二	一七	一六	八	一〇	一〇六
耕作反別	四八	六	三七	四六	二〇	二九	一七五
賠償金	五	六	七	九	九	九	五〇
全反當	一〇	二	七	八	八	八	五〇
順位	一	七	一	一	一	一	六
昭和三十七年度	四八	二	三	四	二	二	六〇
昭和三十七年度	四八	二	三	四	二	二	六〇
昭和三十七年度	四八	二	三	四	二	二	六〇



区名	耕作員	耕作反別	反	積	今	昭八	昭九
戸倉	1	3025	2657	86180	16	253	2500
西ノ原	5	1216	1426	15400	1	1310	14500
新道	3	1013	873	8600	1	8910	9000
細ノ口	8	1020	3080	10050	1	1916	2200
埴名	6	1616	1821	10790	8	1799	1800
古清水	3	1012	1543	11860	3	1000	900
伊波	3	1010	888	8673	1	8911	9000
妙金島	1	1000	2698	8784	1	3021	3000
松ノ崎	6	1510	1781	1320	2	1550	1600
新保	13	2045	2216	8874	1	3481	3500
学校区							
荒土村							
管内							

注 耕作人員中のアラビヤ数字は乾貯室数を示す 一室管反別は三反内外なり  
管内の未記入の所は調査が行届かなかった  
管内は全然耕作せず そのかわりに養蚕に主力を注いでいる 養蚕の部参照  
学校の試作は昭和七年度なし

其の他の農産物

作物	反別	収量	収入	反當	作物	反別	収量	収入	反當
大豆	220	175	2288	1030	大豆	10	35	150	1500
小豆	61	455	675	1107	小豆	1	35	35	350
えんどう	23	27	216	939	えんどう	1	5	5	50
粟	33	21	14	427	粟	1	6	6	60
黍	3	3	36	120	黍	1	7	7	70
唐黍	7	5	40	120	唐黍	1	7	7	70
ソバ	13	3	100	77	ソバ	1	1	1	10
甘藷	5	175	175	3500	甘藷	1	1	1	10
馬鈴薯	5	180	180	3600	馬鈴薯	1	1	1	10
大根	65	100	118	1741	大根	1	1	1	10
合計					合計				

注 本表は自家用を除き賣りしもののみとして見積り  
昭和八年六月二十日調  
昭和八年度



區名	春戸数	春收量	夏戸数	夏收量	秋戸数	秋收量	合計
田部市	一九九	一七四	一一一	一〇九	一	一二	一八六
清水新所	一一五	一〇六	一一一	一一一	一	一二	三三〇
別境	一三三	一三三	一三三	一三三	一	一	三九八
西新道	六六	六六	六六	六六	一	一	一九九
宮崎地	一五	一五	一五	一五	一	一	五二
中波	三三	三三	三三	三三	一	一	九九
妙保	一一	一一	一一	一一	一	一	三三
新保	一一	一一	一一	一一	一	一	三三
計	三五九	三六六	三三三	三三三	五	五	一〇七〇

一貫六圓として計算すれば二〇六八八円 一戸當り 七九・八八円となる  
 大野蚕業取締所の発表によれば  
 春蚕 二四七・〇貫 夏蚕 二二〇・〇貫 秋蚕 四八〇・〇貫 計 三一七・〇貫

3

注 本表の夏秋蚕は一戸々々予想を聞いて計算せり  
 牧蓄 自家用に有してあるのみで副業のものなつておかない  
 昭和八年度の家畜家禽を挙げて置く

區名	馬	牛	猪	鶏	犬	猫
田部市	二五	三三	三	三	一	一
清水新所	一六	二二	一	一	一	一
別境	二〇	二二	一	一	一	一
西新道	一五	一五	一	一	一	一
宮崎地	一八	一八	一	一	一	一
中波	三三	三三	一	一	一	一
妙保	一一	一一	一	一	一	一
新保	一一	一一	一	一	一	一
計	一七〇	一七〇	一〇	一〇	一〇	一〇

區名	馬	牛	猪	鶏	犬	猫
田部市	二五	三三	三	三	一	一
清水新所	一六	二二	一	一	一	一
別境	二〇	二二	一	一	一	一
西新道	一五	一五	一	一	一	一
宮崎地	一八	一八	一	一	一	一
中波	三三	三三	一	一	一	一
妙保	一一	一一	一	一	一	一
新保	一一	一一	一	一	一	一
計	一七〇	一七〇	一〇	一〇	一〇	一〇

區名	炭	水	品目	收量	合計
田部市	一七	二	紫草	一〇五〇	一〇六七
清水新所	二	三	紫草	一〇五〇	一〇五二
別境	九	二	紫草	一〇五〇	一〇六一
西新道	七	一	紫草	一〇五〇	一〇五七
宮崎地	九	一	紫草	一〇五〇	一〇五九
中波	七	一	紫草	一〇五〇	一〇五七
妙保	一	一	紫草	一〇五〇	一〇五二
新保	一	一	紫草	一〇五〇	一〇五二
計	五二	一	紫草	一〇五〇	一〇六三



5

水産業 昭和七年度 自家用者の収入は算せず

産名	生産者	生産品	生産高	収入
庄瀬	一	魚	一〇〇	一〇〇
妙金島	二	魚	二〇〇	二〇〇
新保	三	魚	三〇〇	三〇〇
塩名	四	魚	四〇〇	四〇〇
計			一〇〇〇	一〇〇〇

6

鉱業 昭和八年六月一日調

産名	生産者	生産品	生産高	収入
庄瀬	一	石	一〇〇	一〇〇
妙金島	二	石	二〇〇	二〇〇
新保	三	石	三〇〇	三〇〇
塩名	四	石	四〇〇	四〇〇
計			一〇〇〇	一〇〇〇

7

工業 昭和七年度

産名	生産者	生産品	生産高	収入
酒 野口	一	酒	一〇〇	一〇〇
醬油 田名部	二	醬油	二〇〇	二〇〇
菓子製造	三	菓子	三〇〇	三〇〇
計			六〇〇	六〇〇

出稼

昭和八年六月二日調

1方面

2年

産名	生産者	生産品	生産高	収入
庄瀬	一	魚	一〇〇	一〇〇
妙金島	二	魚	二〇〇	二〇〇
新保	三	魚	三〇〇	三〇〇
塩名	四	魚	四〇〇	四〇〇
計			一〇〇〇	一〇〇〇



3 職業及收入

收 (元)	女					男					計	區 名		
	其 他	借 給 者	奉 公	機 器 工	其 他	借 給 者	商 店 員	機 器 工	計	一 一 一 一			二 一 一 一	三 一 一 一
8544		一		三	二	四	七	五	三	四	一	一	一	田 松
3720				七	二	一		二	七	一	一	四	二	部 町
2700	一			五		一	一	四	六	一	一	四		市 布
6780	三		二	一	二	三	三	三	二	一	一	六	一	島 水
1620				三	二			三	三				三	家 在
4500			二	五	六	一	五		七			二	五	所 別
1800				一					一				一	境
1030				五			一		五	一			四	界 西
1386	一		二	三				一	六		四	一		道 新
540				三					三		一	一		倉 戸
10800	一			一	八	四	三	四	一	五	三	三	九	口 細
2760				二	二	二	二	一	二				一	地 宮
6640			二	九			一	六	三	一	一	一	一	中 堀
5760				一	五		二	八	一		一	一	六	浜 伊
1680				六				一	六				六	島 野
2520				六		二		一	六	一	一	一	三	崎 松
11440	二	二	一	一	一	四	六	一	二	七	二	一	九	保 新
74004	九	三	九	八	一	三	一	五	一	八	九	一	一	計



産業に關係ある団体

団体名	創立	役員	経費	事業
農會	大正十二年四月二十日	會長 一 副會長 一 技師員 一 評議員 八 總代 一八	會員 會費別 一七四 一人 二五 地租割 二二三五 一円二ヶニ六 補助金 一七〇 其の他の收入 三五八二 收入計 一九三三二 支出中事業費 一〇一五円	講習會 農事研究改良の奨励 講演會 農具等の物品共同購入 主婦慰安會 病虫害駆除予防奨励 視察 種蚕共同飼育 財金奨励 各農家組合の奨励
煙草耕作組合	二三八	組合長 一 副組合長 一 理事 一 總代 一七 改良団体長 一四 支部長 一〇	會員 會費別 七一四 一人 二〇 反別割 七二三 一反二円五 補助金 九七五 其の他の收入 一七六・九 收入計 一九二九三 支出中事業費 一二二七円	苗床品評會 葉煙草品評會 支那産投會 堆肥奨励 乾燥室堆肥舎補助 耕作研究改良の奨励 貯金奨励 義務貯金 六三一・四三三 指定積立金 九〇・一七三



• 収入の合計及平均

類別	金額	類別	金額	類別	金額
米	一四三二一〇〇	林産物	八七五八〇〇	出稼	七四〇〇〇
雑糧	三六三〇四六七	水産物	一六〇〇〇	合計	三五四七四〇
その他農産	一〇四一〇〇	鉱産物	五〇一二〇〇	平均	七二五四四
養蚕	二〇六八八〇	工業物	七六四五〇	平均	一三四八二

• 交通

• 交通機関

昭和八年十月二十日調

名 区	自轉車	全手操回	荷車	全小車	馬車
田 松	二七				
郡 石田	五				
市 布	七				
島 水清	七				
家 在祈	六				
所 別	四				
境	五				
原 西	三				
道 新	一				
倉 戸	二				
口 細	三				
地 宮	七				
中 塚	三				
波 甲	二				
島 金坊	八				
崎 松	一〇				
保 新	一九				
合計	一八五				

• 教育

• 學校教育

1 生徒数及教育費累年統計











E 軍事  
軍事關係團體

創立	事業	經費	役員	會員	団体名
昭和七年三月八日	戰病死者招魂祭及遺族優遇並救護 入退營兵親送迎會 軍人分會援助 昔年訓練所援助 其の他軍事に關係する適宜の行為	會費 六十錢 四八九〇 可附金 (不明) 現役免除者義務的可附金 (不明)	會長一 副會長一 幹事五 理事二 常務委員若干	本村 世帯主	國防協會(軍事後援會)
大正三年十一月三日	軍事精神普及講演會 武術練習 演習 未教育補充兵軍隊宿泊 出征現役軍人送迎及慰問 遺族慰問 招魂祭 植林手入	會費 補助 基本金 三六〇〇 五〇〇〇 三七四〇〇		一二〇名	軍人分會

創立	事業	經費	役員	會員	団体名
明治四十四年七月二日	他教化団体、指導 講演會 講演會 貧困兒童救助	會費 補助 其他 二十所金三六〇八 一〇〇〇 〇六二	會長一 幹事若干 副會長一 評議員若干	全村一戸主	教育會
大正三年四月三日	産業研究會 産業調査 敬元會 視察 軍隊慰問 體育會	會費 補助 其他 九六五〇 五〇〇〇 一	團長一 顧問二 副團長一 支部長一七	一六三名	男子青年團
大正十年七月三日	實業講習 編物 料理 演習 修養 一夜講習 月次修養會	會費 補助 其他 一七八〇 一五〇〇 一	會長一 副會長一 支部長若干	八八名	女子青年團
昭和四年四月一日	體育 分團競技會 角力大會 神社忠魂碑拆除 社會奉仕 講習會 回禮揚獎劬 村内通信宣傳	會費 補助 其他 三六〇名 一 一 基本金一三六〇	團長一 副團長一 理事一 支部長一七 副支部長一八	三六〇名	少年赤十字團







社交

・社會的村の曆

14	全	日吉神社	全	大山昨命	全	堀名中清水字澗田に在り
13	全	全	全	伊那那岐尊	全	細野口字丸山に在り
12	全	全	全	天徳目命	全	妙全島字村前に在り
11	全	全	全	伊弉册尊	全	別所字宅地西上山上に在り
10	全	全	全	大己貴命	全	宮地字山岸に在り
9	全	全	全	全	全	伊波字下木結に在り
8	全	全	全	全	全	松崎字門川に在り
7	全	全	全	全	全	松田字上野に在り
6	全	白山神社	全	全	全	新保字欠落に在り
5	全	八幡神社	全	譽田別尊	全	大字清水島字村下に在り

一月  
 一日 新曆正月 休日  
 二六日 勝山歳ノ市  
 三一日 日大晦日 節期  
 一三三目 田正月 休日

四月  
 四日 新保田名部年頭  
 六日 松ヶ崎年頭  
 七日 七草祝  
 八日 布市妙全島新在家境西ヶ祭年頭  
 九日 伊波字倉年頭

一〇日	官地新道年頭
一一日	堀名中清水年頭
一二日	松田細野口年頭
一三日	別所年頭
一四日	清水島年頭
一五日	左義長(今はなし)
二五日	天神講
上旬九日頃	初午(はくご)
三月	
二五日	新保連如上人お講
二八日	松田火祭
中下旬	お彼岸
下旬	小學校卒業式
四月	
一日	入學式
三日	宮地火祭
三日	節句(ひなまつり)
四日	布市火祭

六日	清水島火祭
一三日	新保火祭
五月	
上旬	川ぶし人
下旬より	田植
六月	
五日	節句 鯉のぼり
中旬	各區にて一日づつ田植終了祭
七月	
一五日	新ぼん 休日
一八日	川上大明神祭(へっし祭)
上旬三日頃	半夏生 休日
八月	
七日	七夕祭 休日
一四日	墓まいり
一五日	田ぼん 節期
二三日	顯如上人講まいり
本月中	夏休み



九月

一日 新保お蔵

二日 清水島お祭

三日 田名部お祭

四日 堀名中清水お祭

五日 松ヶ崎お祭

六日 市お祭

七日 他お祭

八日 新在家お祭

九日 細野お祭

一日 松目お祭

二日 新保別所お祭

三日 細野お祭

四日 伊波お祭

五日 妙金島お祭

初旬一日 堀 二日 十日 (休日) 初作

中下旬 お祭日前日より休日 別に後祭一日

十月

九日 節句 休日

二〇日 エビス講

二五日 大神送り

三〇日 神送り

上旬節句頃 学校体育會

十一月

中旬 各區一日、川入祭

下旬より 報恩講

一日 招魂祭

二日 冬至 南風

三日 御七夜

四日 全

五日 新大晦日

備考 全国的に行事中郷土色なきものと思はれるものを省く

記罪 昭和三年以後

色石	田	松	田	市	島	新	別	境	戸	西	新	細	中	地	甲	妙	松	新	計
村邊違及	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	二〇
無議員会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	二〇
賭博	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
住居侵入及盗竊	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	二
淫業及違及	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	七
印紙法違及	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	四
其の他の罪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	二
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
科 料	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	七
罰 金	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	八
禁 錮	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
懲 役	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
科 料	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
懲 役	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
科 料	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
懲 役	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三

科料 最高一〇円 最低三円

懲役 五年 三月

内 恩赦 一 執行猶豫

罰金 最高一五〇円 最低三円

禁錮 三人 六月











年 度	身 長		重 体		年 齡	合 計	昭 和 八 年 度	昭 和 七 年 度	昭 和 六 年 度	昭 和 五 年 度	昭 和 四 年 度	昭 和 三 年 度	昭 和 二 年 度	年 度
	男	女	男	女										
甲	1067	1071	179	192	7	75	8	11	13	10	15	1	1	甲
乙	1110	1114	197	194	8	64	1	2	3	3	1	4	4	乙
乙	1151	1151	218	211	9	55	6	7	7	1	9	1	3	乙
丙	1208	1208	229	228	10	85	10	13	11	14	7	0	0	丙
丁	1258	1258	260	260	11	91	4	4	2	3	2	2	2	丁
戊	1291	1291	285	286	12	0	0	0	0	0	0	0	0	戊
計	1312	1312	319	319	13	25	29	38	35	38	31	50	29	計
入 学 者	1399	1399	364	354	14	61	1	1	7	3	1	9	9	入 学 者

荒土校児童健康統計

八月 夏休につき不明

風邪 寝冷え並に発汗の際の不注意が原因してゐる

外傷 殆んどは家庭に於ける遊びからである 南力スキー等による

腹痛 大抵は蛔虫が原因してゐる

本村徴兵検査歩合

病 名	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	合 計
腹痛	9	8	5	2	4	1	1	1	4	31
頭痛	6	4	3	1	3	1	1	1	4	26
歯痛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
眼疾	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
目痛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
頭痛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
白癩	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
足痛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
物傷	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
創傷	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
凍傷	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
挫傷	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
腕白	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
火傷	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
打身	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
計	31	25	22	14	18	11	11	11	14	155



年齢	身体		胸		回	
	本校	全国	本校	全国	本校	全国
七	一七五	一七二	五七二	五四四	四七四	五二七
八	一九六	一九〇	五八一	五七四	五五〇	五四五
九	二〇四	二一〇	五八一	五八三	五五七	五七二
一〇	二〇七	二〇二	六一五	六〇三	五八一	五八一
一一	二五四	二五六	六三三	六二一	六一一	六〇一
一二	二八三	二八六	六七五	六四二	六一九	六二五
一三	三三四	三三四	六九二	六七三	六七〇	六五九
一四	三八一	三八〇	七一五	六九五	六九〇	六九五
一五	三八一	四三四			七二五	七二八

保安

消防組

公設 一 人員 九六

義勇 一 (伊波)

部数 三

その他

組頭 一 小頭 八

腕力ポンプ 三台

組頭 一 小頭 二

腕力ポンプ 一台

非常時には 男子青年団 分會員等 消防警務の補助となりて 警備につく  
 本校の陸軍特別大演習の時は之を警行せり  
 本校出身取功せる人々

現村長 竹内茂一氏

伊波の人若年にして家を出で飛鳥組に入り、艱難辛苦幾多の辛酸を嘗の順次昇進して組の部長に推され、三十有餘年間一貫せる奮闘は遂に今日の富を致せり。  
 帰村せらる、や大正十四年九月直ちに村長に推され、翌年増築費金五千円を寄附せられ教育の進展を計る等、村政上に恪勤怠りなく、且又那の煙草耕作組合長、農會長の要職を兼ね、那産業上に貢献せられつゝ、あり、その他赤十字社等の社會事業にも盡さる、所幾何なるを知らず、よりて

昭和五年十一月二十六日

昭和二年三月三十日

大正十五年三月十五日

尚褒状感謝状の主なるものを挙ぐれば

大正十二年二月二十日

大正十三年五月三十日

大正十三年十二月一日

大正十五年四月十八日

大正十五年五月九日

農村施設控營の功績を 大日本農會總裁大勲位功四級特正三  
 殿下より表彰せらる

大日本鹽業會總裁大勲位功二級戴仁親王殿下より五等功章  
 を授けらる

赤十字有功章を授けらる

賞勳局總裁正二位勲一等伯爵正親町實正殿下より

福井縣知事より

感謝状 福井縣消防義會より

大野郡北部消防聯合會長より



大正十五年八月四日

褒状

福井縣知事より

昭和二年七月十五日

左

當勲局總裁從四位勲二等天國直善閣下より

昭和三年十一月三日

感謝狀

大野郡香結聯合會長より

昭和四年十二月二十五日

左

福井縣知事より

昭和六年三月十八日

褒状

左

昭和七年三月三十一日

感謝狀

大野郡香結聯合會長より

昭和八年七月三十日

左

陸軍大臣荒木貞大閣下より

昭和八年九月十三日

左

西条彌子備燈奉告法要執行長より

昭和五年十一月には梨本宮守正王殿下より御茶に召さるの光榮に浴せられたり。

然れども性温厚篤實謙讓の徳を有り、凡て事の円満に治むるを以て、流石の難治村もまよく治り

昭和八年九月村長三選、以て今日に及びり。

工學士 内務省技師 勅任官 山内喜之助氏 明治十七年四月十三日生

細野のく幼時より學を好み、常に學鑽念りなく、優秀なる成績を以て帝大を卒業され、直ちに

官途に就き累進して今日に至る。累歴次の如し。

明治二十五年 荒土村細野尋常小學校に入學

明治二十九年四月 藤山成器高等小學校に入學

明治三十二年七月 全 卒業

明治四十二年十月より向下一年間 東京府水道工事嘱託

明治四十四年十二月 内務省技師に任命 全土木局調査課勤務

年月 不詳 内務省大阪土木出張所勤務

昭和四年八月より一年間 歐米視察を命ぜらる

昭和五年 昭朝後岡山朝日川改修主任を命ぜらる 廣島縣國道改修兼任

昭和八年八月 大阪土木局に轉任 同時に勅任官拜命

法學士 高等官三等 山内 健喜氏 明治三十年一月十三日生

細野のく幼時より學を好み常に優等の成績を以て帝大を卒業し、直ちに官途に就き、累進せら

れて今日に至る。累歴次の如し。

明治三十七年四月 荒土村細野尋常小學校に入學

明治四十一年四月 藤山成器高等小學校に入學

明治四十四年四月 福井縣立福井中學校に入學

大正四年九月 全 卒業

大正四年九月 全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業

全 卒業



大正七年九月 東京帝國大学法学部政治科に入学  
 大正九年十月 高専文官試験に合格  
 大正十年七月 東京帝國大学法学部政治科卒業  
 大正十年八月 青森縣々属科命  
 大正十二年五月 警視廳警部に任命さる  
 大正十二年十月 警視廳警視に任命さる  
 昭和二年九月 警視廳監警官に任命さる  
 昭和三年八月 台湾總督府警務局保安課長に轉任  
 年月不詳 岡山縣事務官科命  
 昭和六年十二月 青森縣書記官に轉任  
 昭和七年十月 岐阜縣書記官に轉任

醫學博士

鰐淵 涼 氏

新在家の人なり。大野中学、金沢第四高等学校を経て、東京帝國大学医学部卒業  
 卒業後同校附属病院助手科命  
 其の後、尾島縣五病院副院長科命、司馬科專攻、斯の年論文「潜水夫の耳聾并に及ぼす影響」を提出し、博士號獲得  
 更に熊本医科大学教授、同校附属病院副院長科命

昭和四年九月二十八日 文部省より海外視察を命ぜらる  
 昭和五年十一月一日 帰朝  
 帰朝後引続々熊本医大勤務

大谷 助太郎氏

東京市本所區にて鉄工所経営

別所の人にして幼時より常に進取的にして、都凡出でて成功せんと志あり、漸く父母の許しを得て、明治二十九年即ち日清戦役直後、活氣奮つて帝都に出てたりしが、卷の如くならず、幾多の辛苦をなめ、今日の商賣を始めし頃は、丁度明治四十年のことなり、而して氏の熱心は、凡てを制服して遂に今日の如く巨大の業を得たり  
 然らば常に郷里を忘れず、昨年中帰郷の折本校を訪はれ、直接教育の援助をなして下さり、本平も亦日頃の汗の賜を惠送下さり、教育の後援者として奇徳なる人なり

辯護士 法學士 平泉 小太郎氏

新保の人にして、本校卒業後、福井中学校を経て、東京第一高等学校に入り、更に東京帝國大学法学部に入學  
 東京帝國大学卒業後、日本石油會社に勤務  
 その後東京市に於て辯護士開業、今日に至る



醫學士 鈴木義隆氏

堀中清水の人なり。その土地の關係上北郷校を卒業。大野中学を経て  
大正九年四月 金沢医科大学医学専門部入学  
大正十三年三月 卒業  
今年四月より昭和四年三月まで 金沢医科大学病院にて研究  
昭和四年四月より 現地勝山町上元院にて開業 今日に至る

平泉 泰雄氏

平泉泰順子孫泰輔長男として明治十七年七月新保に生る。本校卒業後成器夜高寺科を終へ  
福井中学校入学 卒業後  
明治三十五年 金沢医学専門学校入学  
明治三十九年 卒業  
卒業後直ちに金沢病院内科第一部医高勤務  
明治四十一年六月 金沢市金城病院内科小児科部長任命  
明治四十四年三月 退職 現地勝山町長補に開業  
其の後勝山町會議員二期職務の 目下平泉寺北谷西小学校の医 大野郡学校医會長 大野郡  
医師會總代理委員の名誉職を兼ね  
尚現在日本赤十字社福井支那嚔託匠を務む

笠羽 榮吉氏

別所の人。明治二十年教導団を卒へ歩兵第十八聯隊に赴任し、日清戦役には高崎第十五聯隊に  
屬し各所に轉戦し、二十八年五月少尉に昇進し功七級を賜い勲六等に叙せられしが、三十一年中  
尉に、三十三年大尉に任し歩兵第三聯隊中隊長となり、北清事変に參加し、三十七八年戦役には  
破治場司令部員として後方勤務に従事し三十八年少佐に進み從六位に叙せらる。  
三十九年功五級金鵄勲章及び勲四等旭日章を賜はり、四十二年関東都督府遼陽陸軍々法會議判  
士長に補せられ、四十三年正六位に叙せられしが、現在任退いて文部省宗教局内に在勤

五十嵐 均平氏

福井に生れ、字を好み進んで福井師範学校に学び、卒業後若訓導として本校に務め、後京都に  
出て小学校に奉職、停ら修養に努めたり  
歸りて福井市に永く在勤、昭和の始めより益々出で、縣視字に命せられ、その手紙認められ福  
井縣立小沢高等女学校長に榮轉、更に本年十月郷里大野高等女学校長として在勤中

山内 務氏 *Miz. Thomas Yamawuchi.*

境の人、幼時より字を好み湖野分教場にて其の基礎を固められ、進んで中等学校、高等学校  
を経て、早稲田大学を卒業、常に希望せらるゝ海外即ちアメリカに渡り、活動されつゝ、学校教  
育の後援をされつゝあり



・村内有勲者

勲七等 功七級	有馬 五六	勲八等 功七級	杉元留吉
勲七等	水上 清	勲八等	森石基之助
勲八等	岩岡九三郎		島田喜作
全	島田仁太郎	全	平泉源太郎
全	五十嵐三好	全	多田要松
全	島田鐵右五	全	山内桂板
全	島田太平治		

### 第三章 歴史的安

#### A 沿革

本村の田名部が(景行記)田部止倉の遺跡なりとの説 (越前名蹟考) 按に日本紀云 景行天皇五十七年十月 同諸國與田部止倉と 此田名部村は古に田部の遺跡歟と言へる人あり猶考ふべし。又(和名抄)所載大山郷に含まれしとの説(地名考)等傳はりて早く聞けしは疑なし。(天文八年平泉寺賢聖庵々領目録)に細野村 成福屋敷 木ウ木ノ谷 松田村 松崎堂之後 新保村 新在家村 散見するを見れば其の頃の状況も概察し得べく 細野の道觀兵衛の名が平泉寺滅亡史に北袋一捲の巨魁として著れ居るより見れば 此の村が北袋と汎稱されし地の一部たりしは明かなり。斐長榎地後は大異なく 福井藩の厭封 前は常々藤山領たりしが

(名蹟考) 文化の頃郷土区分にては北袋郷の内 布市 清水島 田名部 松田 新在家 新保 松ヶ崎 別所

郷庄不知(十ヶ村)内(邊月兼合) 掛金島 此村は黒龍川の南富那の西端に在りて吉田郡に隣る 按に貞に貞享の國繪圖に……高百九十六石五斗二升二合川の南に村有之と記す(按に流域の変遷より今は川の北となり新田も増しなり)

同(十ヶ村)内(郷等) 伊波 宮地 細野 細野口 堀名中清水  
の如く載するに徴すれば掛金島は原と 康谷村即ち九頭竜河南に在りしは著るし 北郷村章恭照 北郷村誌稿) 九頭竜川は東掛金島より西掛金島地籍を貫流したりしが 元禄十三年流域變更 現今の如くなりしといふ

其の所領は 小笠原侯入封以來 庵藩まで大異なく(同書) によれば大畧如左  
勝山嶺 二千七百九十二石八斗八升 布市 清水島 新在家 松ヶ崎 大邑

公料 千四百九十九石六斗二升四合 掛金島 新保 堀名(原と名と記す) 五邑  
中清水 宮地

郡上領 千六百十六石四斗八升 田名部 松田 別所 細野 四邑  
庵藩置縣後設置縣の頃は第十七大区に屬し 區長は黒柳大六にて其小區と区長は次の如くなりキ 其頃より東掛金島は本村の大部分と同一區劃に編入されたり(川南の尚一部存し何掛金島を残り居れり)  
二小區 伊波 東掛金島 西掛金島 堀名中清水(北郷の一部) 中村武兵衛



三小區 林田 別所 細野 細野口 新保 北宮地 松崎 平泉源次郎  
 四小區 田名部 北新在家 布市 清水島 (野向村の一部) 平野八郎右門  
 十七年聯合戸長を官選さるゝや 本村は二役場に分轄せられぬ。  
 北新在家村十ヶ村戸長役場 北新在家 布市 清水島 田名部 新保 松崎 松田  
 中野金島 西妙金島 別所 細野

役場所在地 北新在家 戸長 松田由長衛 木下藤太郎  
 伊波村外五ヶ村 戸長役場 伊波 北宮地 細野口 塚在中清水 (北郷一部)  
 役場所在地 伊波 戸長 島田源五郎 笠川継孝 安田光政  
 本多新太郎 笠羽嘉市

二十二年町村制実施の際 現村を組織 現村名を附せり 爾來の村長氏名如次  
 自明治二十二年六月十六日 至明治二十五年三月十一日 笠羽嘉市  
 自明治二十五年三月十五日 至明治四十年八月五日 玉木平之丞  
 自明治四十年十一月十二日 至明治四十二年九月十六日 山内喜一郎  
 自明治四十二年九月十六日 至明治四十四年一月十六日 事務官掌 仲村 政  
 自明治四十三年一月十六日 至大正四年十一月十二日 山内喜一郎  
 自大正四年十一月十二日 至大正八年十月三十日 平泉源太郎  
 自大正九年十二月四日 至大正十四年三月十六日 原田善吉  
 自大正十四年一月二十四日 至大正十四年三月十五日 職務官掌 牧野新太郎

B

自大正十四年三月十六日 至大正十四年九月二十七日 臨時代理者 橋田太郎  
 自大正十四年九月二十八日 以下引續き在職 竹内茂一  
 村役場 大字伊波にあり 町村制実施の際には 木下藤太郎の宅を借用せしが 明治二十六年田  
 荒土枝の一部を之に充てたり 翌年更に一民家を購入して 松田に改築し 尚大正七年一民家を  
 購入し移轉改築したるものが現今の役場なり  
 迎査駐在所は明治二十一年以來新保に在り。

史實  
 増ヶ城址 島田將監  
 本村堀名中清水の端山を攀上ること五六町にて達す 今は只雑草繁れの中に数十坪の稍平坦な  
 る箇所を止むるのみ。されどその四圍に點在せる大礎石は當時の形勢を憶ふに足る 且此の地  
 点たるや勝山平野の西部に位し 全平野即ち三方見通易きを選べるとのこにより推知するもの  
 なり

將監傳  
 正保 朝倉教景の女八重を娶りて正房を生む 即ち將監にして福井本寛寺の女幾代を娶り  
 五子を孕り天正八年四十七才にて野向村北野津又にて生先不明となりしより 是輩は加賀江  
 沼郡波佐谷に遷伏し、全十五年所解土着し、長男正良は隣村森川に住し忠石三門の祖となり  
 二男治郎三郎は唐谷村岩坂に 三男某は本村堀名に 四男善助は福井に住し 五男近江不  
 明



此の増設は本年十月更に行幸記念事業として、青年団が土肥線分をかりて、柱を建て所迄をならし、成趾を保存するにせり。

C 学校沿革

年月不詳 松田に鶴生小学校 松田新在家田名部新保松ヶ崎五区の児童通学  
明治六年八月 宇制登布のや 森川に松尾小学校 森川橋曾谷を比原森名中清水・西村金島伊波東村金島七ヶ

明治七年七月 布市清水島の児童は電谷村青野小学校へ通学  
細野口の細野小学校 細野口北方地別所境四ヶ区の児童通学

明治八年 戸倉西 智新道三區の児童通学  
堀名中清水の石井善右門成全區に壇城小学校設立 堀名中清水・橋曾谷・伊波

明治十一年三月 東村金島四區の児童收容  
堀名中清水の児童收容

明治十三年 北館村を白樺曾谷 壇城小学校より分属  
北館村を白樺曾谷 壇城小学校より分属

明治二十三年 荒土井段並田嘉右成石井成、依頼し壇城小学校を金百九十七円にて譲り受け  
伊波に講業 荒土尋常小学校と称せり 然して中橋 鶴生 壇城三小学校は

明治二十四年 廢止 三小学校の児童全部收容  
細野口 細野西小学校も合併して、壇城細野尋常小学校設立

明治二十五年

田名部新在家清水島布市の児童の爲に清水島に荒土尋常小学校冬季分教場を設置

明治二十六年

清水島冬季分教場を常設分教場とす。  
更に独立して 清水島尋常小学校とせり。

明治三十一年四月

以上三尋常小学校を合併して荒土尋常小学校と称せり  
今年十二月まで緩分教場 第一假分教場 元清水島校 尋四まで收容

明治四十三年一月二十五日

今年十二月まで緩分教場 第一假分教場 元清水島校 尋四まで收容  
第二假分教場 元清水島校 尋四まで收容  
第三假分教場 元清水島校 尋四まで收容

別所道場 左  
田荒土校 尋五古收容  
元細野校 尋四まで收容

合教場  
今年十二月現在地新教室落成 三假教場閉鎖

明治四十五年一月

元荒土校をりし旧校舍を本校東北隅へ増築す  
高専科設置 二日 村會決議す 四月二日認可

大正五年十一月

本館東方に幅四間半 奥行十一間一棟増築起工 大正六年五月落成  
四月四日 校名(荒土尋常高等小学校)に変更 授業料徴收の件認可

大正十五年四月

屋内運動場八間に十五間一棟及び 教室五間に五間の増築並に田室内運動場  
を二教室に仕切をなす計画を立て 五月起工 九月落成

昭和二年二月

降雪の爲旧校舎十四坪倒 せり之を取替ふ  
便所二間八七間に増築廊下二間延長す



昭和七年十一月 細野介教場改築落成  
昭和八年五月 西階段変更 應安堂増築

校長

1合併以前 清水島細野西尋常小學校は不明

荒土尋常小學校

自明治二十四年十二月十六日	至明治三十年五月十八日	五年五月	石井 修
自明治三十一年四月十三日	至明治三十四年五月三十日	三年五月	中村武一
自明治三十四年五月十五日	至明治三十五年三月三十日	十ヶ月	川池源平
自明治三十五年四月一日	至明治四十一年五月三十日	六年	松山甲之助
自明治四十一年三月三十一日	至明治四十二年三月三十一日	二年	大森文三助

2合併後 荒土尋常高等小學校

自明治四十二年三月三十一日	至大正七年三月三十一日	八年	長谷川四郎松
自大正七年三月三十一日	至大正十三年三月三十一日	六年	山田謹藏
自大正十二年三月三十一日	至昭和四年三月三十一日	五年九月	清水目助
自昭和四年十二月三十一日	至現在		平泉 繁

注 合併以前の 右村校長と中村校長の間の校長は不明  
合併以前の校長中 石井校長及び大森校長は本正 他は尋常正  
合併以後の校長は 全郡本正

D 故人物誌

小林嘉右門

荒土村新保 明治三十一年六月十二日死七十八才  
幼にして學を好み 長年及び十八史略の闇くも直ぐ之を暗に口誦せりと 又時耕雨説入りて  
は親に孝 必で、はく々に孝道を説き 遂にその孝心時の勝山藩に知られ 大名伴源右門 長谷  
川博 宮家一五五門の三名に命じて調査せしむ 藩主痛くその言行に感激し表彰せり  
嘉右門蓋 孝道の世要を感し 春秋の農繁期を除く外は 昼は自宅に於て年子に教示し 夜は遠く野  
向村岡北郷の諸村を巡り孝道を説く 為に二才の童子と雖も或の名を知らるものなかりしといふ

平泉源次郎

荒土村新保

明治三十四年十月二十日死 七十八才

文化十一年八月野向村北野津又に生る 父は松井傳兵衛 母は藤沢氏 天保十三年二十八才にて新  
保医師平泉泰元の弟子とよしの婿養子となる 性温厚にして沈着なりき 時に字徳ありと見え  
くわさり其尊敬せられ 毎年十月より三月節句まで 新保區外七區より四五十名の弟子来りて教を  
受く それより名実共に認められ大庄屋の事務代理までなすに至れり 遂に認められ水保領大万石  
の廻米藏名となり 更に嘉政三年水保領御所より卯月御立賣廻米藏納名主申付けられ 同三年四  
月十六日越前國丹生郡氣比庄村山本甚兵衛氏と江戸表へ出頭を命ぜられたり  
その後維新となる也

明治三年七月 本任縣より第六号の戸長を命ぜらる  
明治四年六月 水保縣より新保區外七區の戸長を命ぜらる



明治五年 本保藤より勝山藏納役總代申し付けらる  
 六年 致賀藤より第三十一火區第四火區の戸長を申し付けらる  
 七年 致賀藤第十七火區第三火區の戸長を申し付けらる  
 十一年 地租改正取締所を設けさせらる

笠羽嘉市

荒土村別所 明治二十五年十二月十九日死去 三十七才

氏初にして横性の行為を好み 長じて公益のことを樂しむを以て 明治十七年北新在家村外十ヶ村  
 甲楙を 更に明治二十二年一月伊波村外五ヶ村の戸長を命ぜらる 時に北郷荒土の兩村は新政を  
 ばすして納税を拒む 氏はその非違を止毎に説くは世人近大りの無私の行為に感じ争つて納税を免  
 うせりと その後村長の重職に就くや日夜寢食を忘れて各區を巡視し村政大いに務る 更に開拓事  
 業の盛なる當時は私利私慾を擯れこのことによき事をせりと 惜哉病を得三十七才を以て永眠す  
 村政代を遺傳するに石碑を以てせり

山内 周昭

荒土村細野郷 大正五年十月十七日死去 六十九才

十才にして父を失ひ 母の手一つにて教養を授く 若年より土地開拓事業を好み 出で、働き一り  
 ては地層の研究を進めたり 長じて處々を巡視し開墾の跡に感じ 明治十二年細野村戸長に任ぜら  
 るるや希望なる土地開拓に盡精し 三年の年月先このことと當り 遂に細野に反立故歩余を開き  
 く美田とす 當時細野正は亦開墾中水田少なりしかば皆その手跡に驚きたり 之長と今日の如

き水田をなす基となれり 又植林事業にも意を用ひ 私財を投じて村共有山地に杉松苗を植え山地  
 開拓の範を示されたり 今日ハ造林即ち是なり 一方重要産物煙草耕作力を入れ 明治四十五年  
 三月耕作總代を命ぜられ大いに改良発展に努め 遂に表彰状を受く 表彰状次の如し

表彰状

大野郡荒土村 山内周昭

右ハ農事發展上貢獻せられたる所多火ヤルヲ認メ茲ニ銀杯壹個ヲ贈リ其ノ

功勞ヲ表彰ス

大正四年九月三日

侯爵

松平康口社 印

竹内 某

嘉永元年往生 九十才 荒土村伊波

爾來竹内家は通場を以て職たり 現代相續者より大代前の人なり  
 常に佛を信じ 法の明かなるため 北郷 康谷 村岡 勝山の善男善女集り承りてその教を授けり  
 又種字に通じ 多くの志あるもの氏の宅に授けせりと



郷土の少女 終り

昭和八年十一月二十日印刷  
昭和八年十一月十日發行 (非賣品)  
編輯兼 福井縣大野郡荒土村 荒土尋常高等小学校  
發行人 代表者 平泉 繁  
發行所 福井縣大野郡荒土村 荒土尋常高等小学校



終

353  
4  
94